

修了生からの
お便り



書くことを通して 自己と向き合う、 そして教育と向き合う

小学校の学級担任を13年経験し、再び学ぶ機会を得ました。気付くと中堅と呼ばれるようになっていましたが、あまり自覚がもてず、このままでいいのかという不安や焦りの方が大きかったように思います。そこで、もつと教員としての専門性や力量を高め、自己の変化や変革が必要だと感じ、大学院へ進学することを決意しました。

橋本定男先生の研究室に所属し、2年間、学級活動話合いの研究に没頭しましたが、研究は容易なものではありませんでした。理論と実践の間にある溝の大きさ、話合い実践をどうとらえれば研究になるのかという大きな問いに、悩み、模索し続けたのです。しかし、現職教員としての自分のできる研究とは何かを考えた時、あくまでも実践者として、これからの教育実践に生きる研究でありたいという答えに行き着きました。そして、先行研究から分析枠組みを導き出すことができ、なんとか話合い実践を研究の形にまとめることができたのです。もちろんそこには、橋本先生をはじめ、ゼミの仲間の協力があつたこと言うまでもありません。

修士論文を書くということは、非常に苦しい作業でもありましたが、まさに書くことを通して自分自身と向き合うことを学び、ひとつのものを生み出す喜びを

得ることができました。

また、大学院の授業では、多くの文献にふれて知識を広げたり、議論したりする経験も積み、現場では得難い学びの楽しさを味わうことができました。

現在は、学級担任として話合い実践に取り組むとともに、研究副主任という立場から、自校の教育課題である学級づくりの研究を推進しています。学年の協働関係の構築や、個々の学級づくりの成果・課題を共有し合う場の設定など、大学院で学び得た視点が大きいに役立っています。多くの方々温かいご指導に感謝し、今後も自覚をもって教育に取り組んでいきたいと考えています。



岩島 亜紀子
(いわしま あきこ)

新潟県現職派遣教員として、平成21年4月から上越教育大学大学院学校臨床研究コース生徒指導総合科目群に在籍し、平成23年3月に修了。橋本定男研究室で特別活動を専攻し、学級活動話合いをテーマに修士論文を執筆。現在は、上越市立春日新田小学校に勤務し、6年生の学級担任と特別活動主任、研究副主任を担当している。